

授業での活用事例

【内容】ICT機器を用いて意見を共有する

【使用アプリ】ロイロノート

○単元の導入においてロイロノートを活用する

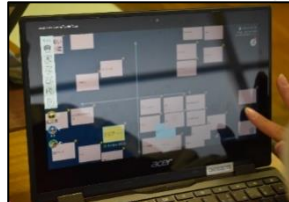
3年社会科の授業（家計と消費活動）の単元において、ロイロノートのシンキングツールや共有ノートの機能を用いて、学級全体で意見を共有しました。まず、シンキングツールは、座標軸を用い、お小遣いの使い道を4つに分類します。分類した項目は、飲食代・娯楽費・友人との交際費・その他です。班で意見交換をしながらテキスト機能を用いて項目に当てはまる言葉を記入しました。

生徒が記入する様子①



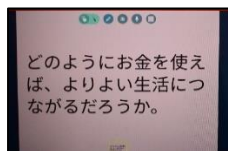
お小遣いの使い道
は娯楽費が多数を
占めていました。

生徒が記入する様子②

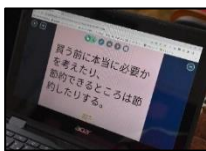


☆全体で意見を共有したことで、生徒たちは今後の生活で気を付けなければならないことや、全体の課題について知ることができました。そして、今後のお金の使い方について全体に問い、一人一人の意見を出させた後に、意見を共有し、まとめとしました。

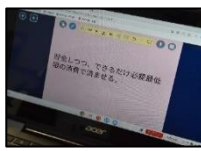
生徒への問い



生徒の解答①



生徒の解答②



【家庭学習での活用】

本校では、すららドリルやタブレットドリルを課題として積極的に活用しています。タブレット端末の課題は、単元ごとの出題が容易であり、提出の有無や達成率を素早く確認することができるため、課題を終えていない生徒にも声掛けしやすいという利点があります。現在実施されていない学校があれば、ぜひ取り組んでみてはいかがでしょうか。

【終わりに】級友のお金の使い方や今後の生活について共有したことで、生徒一人一人が家計に、今まで以上に興味を示すことができ、様々なお金の使い道があることについて知ることができました。今後も継続してロイロノートを活用し、意見を共有することや自分の意見を発表することを大切にしていきたいと考えています。

☆教育委員会主幹講評☆ 今回は、ICT機器を活用した意見の共有ということで、ロイロノートの活用報告と、AI型ドリル学習ソフトの積極的な活用についての呼び掛けもしていただきました。探究的な学びの実現には、効率的に各教科の基礎・基本を身に付ける必要があります。しかし、学校など集団で学習を進める場合は、一人一人に十分なフォローを行うことに限界があります。そのため、一人一人が必要とする内容を効率良く、効果的に身に付けることが難しく、児童生徒が学習に対して前向きになれないということにもつながります。個々の学びの中で、実力に合わせて難易度の異なるプリントを選び、解いた結果を視覚的に表示したり、単元を解説する動画を視聴したりするといったICTならではの特長を生かした個に対応した学びをサポートすることは、学習の個別最適化を実現し、児童生徒に「分かった」という学習体験を提供し、「分かるから楽しい」という学習意欲向上を実現することができます。ぜひ、AI型ドリル学習ソフトをどの学校でも積極的にご活用ください。